

音楽を使った論理的な発達支援で、
子供たちの笑顔と成長を見守る。



自分も
楽しもう!!

深見 麻央さん (1993年生まれ)

栄徳高校 出身
名古屋芸術大学 音楽学部(※)卒業

名古屋芸術大学

北名古屋市熊野庄古井281
https://www.nua.ac.jp

なるためには

●必要資格 / 日本音楽療法学会認定音楽療法士
●主な進路 / 高校卒業→日本音楽療法学会認定校で必要単位を
取得→音楽療法士試験に合格→音楽療法を取り入れる施設等で
働く

——学生時代

「教室という空間が苦手、保健室にいることも多かった高校時代でしたが、交換ノートでさまざまな相談に乗ってくれた担任の先生には、今でもとても感謝しています。3歳から習っていたエレキギターと、ドラマで興味をもった医療業界、どちらも関係のある『音楽療法士』の仕事を知って、進路を決定。名古屋芸術大学を見学したとき、「この先生のもとで勉強したい!」という出会いがあり、迷わず進学しました」
大学時代のことを教えてください。
 「卒業に必要な単位に加え、音楽療法士になるための必修カリキュラムがあり、思いのほか勉強に追われる日々でしたが、音楽・音楽療法の知識や技術だけでなく医学・福祉・心理学等、興味のある分野の学びはとても楽しかったです。また子供・成人・高齢者の3領域の福祉施設での実習も経験。4年生の冬に実施される音楽療法士の資格試験に向け、対策講座にも取り組みました。就職活動では、音楽療法を取り入れている施設をリストアップすることからスタート。施設に電話をかけ、自分を売り込みました」

——仕事について

「新卒で入社した会社に半年勤務した後、フリーランスとして独立。音楽療法教室の先生のアシスタントや、児童デイサービス施設の非常勤音楽療法士などを経験しながら、スキルアップしていきました」
現在の仕事内容を教えてください。
 「福祉施設や自宅での音楽療法教室で子供たちの発達支援に携わりながら、昨年恩師から声をかけていただき、現在は母校の名古屋芸術大学の音楽領域助手として働いています。音楽療法士の仕事は、よく『癒し』のイメージとして受け取られがちですが、実際には癒しだけでなく、音楽や楽器を用いて、子供の心身の発達や、言語・身体のリハビリと介護予防、またコミュニケーション等さまざまな方向から論理的に支援に取り組んでいます」
——やりがい
 「一人ひとりに合わせて計画を立てて実践し、経過観察をするので、大変なことも多いですが、子供たちの笑顔を見られることが何よりのやりがいです。保護者の方の笑顔もそうですね。障がいをもつお子さんのお母さんたちは、子育てと療育で大変なので、音楽の時間だけでも楽しく笑ってもらえれば、と思います。子供たちの成長を保護者の方と一緒に見守って一緒にやるこぶことができるのも、この仕事の特権です」



——なるためには

「日本音楽療法学会の認定校で必要なカリキュラムを履修し、単位を修得して受験資格を得た後、音楽療法士の試験に合格する必要があると思います。でも何よりも『音楽を楽しむこと』が一番です。自分が音楽の楽しさを知らないと、誰かに音楽のよさを体験させることって難しいですよ。大学でも、勉強が嫌にならないうように、授業の中でセッションをしたり、音楽を聴きあつたりすることを取り入れて、『楽しむ』ことの大切さを学びました。まずは自分が楽しんでください!」



22歳 名古屋芸術大学で音楽療法を学び、資格取得後、福祉系の企業に就職。
 ↓
 23歳 音楽療法教室やデイサービス施設など、さまざまな現場を経験する。
 ↓
 28歳 母校の大学で助手をしながら、フリーランスの音楽療法士として活躍。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>

